

[様式第 9 号及び様式第 10 号の作成方法等]

## 1 使用様式

各選抜において、使用する様式は下表のとおりである。

なお、平成 28 年 3 月以前の卒業者又は中学校に就学すべき期間の全部において外国の学校（施行規則第 95 条第 2 号に規定する在外教育施設を除く。以下同じ。）に在籍する者については、様式第 9 号及び様式第 10 号を提出しなくてよい。

様式番号	使用する選抜
様式第 9 号	選抜（Ⅰ）、通信制の課程の選抜、連携型中高一貫教育に関する選抜、併設型高等学校入学者選抜、併設型高等学校の帰国生徒等の特別入学に関する選抜、秋季入学に関する選抜（通信制の課程のみ）
様式第 10 号	選抜（Ⅱ）、選抜（Ⅲ）、帰国生徒等の特別入学に関する選抜、秋季入学に関する選抜（定時制の課程のみ）

## 2 作成基準日

（1）選抜（Ⅰ）、連携型中高一貫教育に関する選抜、併設型高等学校入学者選抜及び併設型高等学校の帰国生徒等の特別入学に関する選抜

第 3 学年の 2 学期末現在で記入する。ただし、2 学期制の中学校にあつては第 3 学年の 12 月末現在で記入する。

（2）選抜（Ⅱ）、選抜（Ⅲ）、通信制の課程の選抜及び帰国生徒等の特別入学に関する選抜

第 3 学年の 2 月 8 日（水）現在で記入する。

（3）秋季入学のための選抜

第 3 学年終了時で記入する。

## 3 作成区分

第 3 学年の全学級について、学級ごとに作成する。

## 4 作成対象生徒

学級の在籍生徒全員について作成する。

## 5 生徒数欄

学級の在籍生徒の人数を記入する。

## 6 番号欄及び欠番欄

学級の出席簿どおりの名列番号を記入する。ただし、同一学級内で男女がそれぞれ 1 番から始まる番号となっている場合は、通し番号にする。

なお、各生徒の番号は、すべての選抜において同一のものであること。

また、欠番がある場合、空白の行を作らず、詰めて記入し、欠番となっている番号を欠番欄に記入する。

記入枠が不足する場合、1 枚に納まるように枠数を増やすこと。

## 7 必修教科の評定欄

（1）次のように記入する。

ア 選抜（Ⅰ）、通信制の課程の選抜、連携型中高一貫教育に関する選抜、併設型高等学校入学者選抜、併設型高等学校の帰国生徒等の特別入学に関する選抜及び秋季入学に関する選抜（通信制の課程）の場合（様式第 9 号）

各生徒について、[様式第 7 号及び様式第 8 号の作成方法等] の 5 の（2）のアの（ア）（P91）

に準じて記入する。

イ 選抜（Ⅱ）、選抜（Ⅲ）、帰国生徒等の特別入学に関する選抜及び秋季入学のための選抜（定時制の課程）の場合（様式第 10 号）

各生徒について、[様式第 7 号及び様式第 8 号の作成方法等] の 5 の（2）のアの（イ）（P92）に準じて記入する。

（2）[様式第 7 号及び様式第 8 号の作成方法等] の 5 の（2）のイ（P92）又はウ（P92）により指導要録に 5 段階評定が記入されていない場合、当該欄は空欄とする。

## 8 備考欄

次のものを備考欄に記入すること。

（1）転入学者については、転入学した旨を転入学年とともに記入する。

（2）中学校に就学すべき期間の一部において、外国の学校在籍により評定が空欄になる場合にあつては、編入学した旨を編入学年とともに記入する。

（3）特別支援学級等において特別の教育課程により履修している教科について、その活動の記録を記述形式で指導要録に記入している場合にあつては、備考欄にその旨を記入する。

ただし、特別支援学級等のすべての在籍者について全教科・全学年とも記述形式で指導要録に評価を記入している場合にあつては、この様式の作成を省略してもよい。この場合、この様式に記載されている生徒数と評定（成績評点）集計表（様式第 11 号、様式第 12 号）の生徒数とが一致しないことになるので、評定（成績評点）集計表の「提出先高等学校名」欄を利用して、「全教科・全学年とも記述形式で指導要録を記入している生徒〇人の評定（成績評点）一覧表は省略している。」旨を記載する。

## 9 （ ）枚中の（ ）枚目欄

提出するそれぞれの選抜について、次のように記入する。

（1）（ ）枚中の括弧内には、全枚数を記入する。

（2）（ ）枚目の括弧内には、学級順に通し番号 1， 2， 3， ……を記入する。

## 10 その他

（1）志願先高等学校（全定別，本分校別）に 1 部提出すること。

（2）提出にあたっては、学級順に重ね、左上とじ込みとすること。